



## 新しい幼稚園の教師

及 川 ふ み

この春、学窓を巣立って、幼稚園の教師として、新しく就職された数おおくの仲間をむかえたことは、わたくしたち幼稚園の世界に、新しいいぶきが感じられて、まことよろこばしいことである。また、力強さが感じられてたのもしくもある。

\*

どこの幼稚園にも、一人や二人の新しい教師が赴任されたことであろう。そして新しく入園した幼児や、その保護者の方を相手に、これらの新しい教師というかたは、どんな様子であろうか、どこことなく落ちつかないふんいきのうちに、四月、五月とすぎ去ったことであろう、と考えられる。

幼稚園の教員養成機関も、全国的にその数は、次第に多くなってきており、また、その教育の内容においても、次第に充実されつつある今日、そこを卒業した学生たちは、一応見

童心理学や、教育学その他の諸教科の学習に、また音楽、保健、図画工作などの専門教科などの知識技能についての修得、それに加えて、教育技術の面も、現場での教育の実習で、よく学ばれたことであろう。

\*

しかしながら、これらの人びとの育成せられた学園と、現在就職された幼稚園の現場との間には、必ずしも一致するところばかりではないのではなからうか。おそらく、いろいろの点でへだたりのあるということ、いなめないことである。

まず多くの学園と、幼稚園の現場とでは、土地柄の点において異なっていることはいうまでもない。学園の所在地が大都市圏であって、就職先の幼稚園が小都市であることなどは普通のことであろうし、また、同一の都市の内でも、一方は住宅地環境であり、他方は商店街であるとか、工場地帯であ

るとか、などで教育実習上においての経験がそのままに、卒業後の現場の幼稚園に通用することは、少ないようである。このようなことが、常に大きな障りとなって、新しく赴任した教師がとまどうことが多いのである。また、教育実習の場は多くの場合、常にかこわれたといううか、教育しやすい特殊の環境において、なされるのである。たとえば、実習の対象幼児の数の点においても、一組四〇人の最大の線である。あるいはそこに集まる幼児の質、家庭およびその他の生活環境、あるいは幼稚園内における環境の整備について、比較的に十分な準備のある教育実習。あるいは実習についての時間にも、回数的にも充分にその機会を重ねることの困難な点など、いろいろの弱点をもっていることもいえないことである。

これらの教育実習についての不充分さは、現場におられる先輩諸姉の寛容なる受け入れ体勢に期待をもって、その軌道にのせてもらいたいと切望するものである。

\*

また、新しく幼稚園の教師となった多くの人びとは、純真なまなざしで、幼児たちを率直に観察して、教育指導の理念にもえている。そこでその観察の事実をありのまま、習得した知識と単純に結びつけて、保護者にこれを伝えてその指導

の協力に供えんとする場合がある。こんな場合にそれがスムーズに保護者の協力となって順調な指導へのきつかけとなる場合も多いのであるが、ときにはこれを伝えるための表現の言葉のつかい方に不備なところがあったり、あるいはその態度について、心よしと受け入れなかったりして、その指導の面において協力されないばかりか、かえって保護者への心を阻害したりすることなどもある。これらいろいろの点について、日々の教育の面においても、保護者に対する態度についても、先輩の指導と援助を受けることが多いのである。

\*

新しい教師について、とどかないと思われるいろいろな場を考えてみたのではあるが、このはじめにも述べたように、とにかく新しい教師は、若さの力強さ、精力がみちみちていること。なさんとする意欲も旺盛であること。また学窓において習得した新しい知識をもっている。それに加えて、幼児に対して指導せんとする純真無垢な強い愛情ももっている。これらの長所を大きくとりあげて、とにかく新しい、若さのいぶきを幼稚園に注がせてみたい。新しく教師を迎えられた幼稚園の先輩の諸姉は、これらのういういしい人びとの上に温かい手をさしのべられる、よき指導者であられることを期待してやまない。

（筆者はお茶の水女子大学付属幼稚園長）